

大阪大会の 記念講演は 家平悟さん

愛知大会から4か月。大阪では、来夏の第45回全国大会の準備がすすんでいます。

9月24日(金)には、第1回大阪大会準備委員会が開催され、19団体41名が参加しました。参加者から次のような発言がありました。

「全障研は親として成長するきっかけになった。若い親にも伝えて、新しい顔が増える大会にしたい」「滋賀大会に参加して感激し運動に目覚めた。若い人と取り組んで、伝えていきたい」「親を誘って、一緒にレポートを出したい」「今は、かつては立場がちがっていた相手とも共同で集会を開いている。大阪大会も幅広く発信していこう」

大会準備委員会体制は以下の通りです。準備委員長 湯浅恭正(大阪市立大学)、副委員長 慎英弘(四天王寺大学)

中内福成(障連協) 青木道忠
(前大阪支部長、事務局長)
高橋翔吾(小学校教員)、会計
西村裕見子(府立支援学校
教員)。

記念講演は、家平悟さん
(日本障害者センター事務局
次長、自立支援法訴訟元原告)
に決定。プレ企画も第6弾ま
で企画して、若手事務局長の

高橋さんを中心に準備をす
めています。
「大阪大会」の日程を来年
の手帳に記入して、今から参
加をご予定ください。

【日程と会場】
7月30日(土) 全体会
大阪国際会議場
7月31日(日) 分科会
四天王寺大学

アラウンド GOGO 55



歌と社会科

吉田重子

中学生のとき、私はフォークソングクラブに所属していた。当時ラジオから流れる歌には、ギター1本で比較的簡単に引ける曲が少なくなかった。高石ともや、岡林信康、守山良子:。「手紙」で部落問題の存在を知り、「イムジン川」が発売禁止になったと聞いて、朝鮮戦争が何たるかもよくわからないままにどきどきした。

私は、現在盲学校で社会科の授業を行なっている。2、3年前のこと、1960年代、70年代のことが授業の中で話題となった。若者たちがベトナム戦争に反対して歌を通じて主張したことなどを話した。

「プロテストソングって知ってますか? いや、知らないよね、今そういうのないですからね」そのとき「え! プロ野球の入団テストの歌ですか?」「!!(ふざけるな)」。いや、そうではない。彼らは

「We shall overcome」を歌うこととなった。冗談からうまれた「YS21」というユニット結成。Y(吉田)はギターが上手なS(相棒)の足を引っ張りながら、無事ステージを終えることができた。

が、最近ときどき頭を持ち上げることがある。
*
きわめてまじめにそう言ったのだ。私は言葉を飲み込んだ。実は、そこは中学生や高校生のクラスではなかった。さまざまな年代の人も学んでいる職業自立を目指す専攻科。この入団テスト発言はたしか30代の生徒からの声だった。今年の授業では「せいぜいわかるのは、南こうせつくらいからです」と、自称人生を知り尽くした40代生徒に言われて、ますます「あのころは遠くなりにけり」である。

先日、ラジオから岡林氏、高石氏らの歌が流れた。「メツ

練習をして、次のステージに備えようか。生徒たちをしらせさせてでも、歌う授業をしてみようか。
(全障研北海道支部、全日本視覚障害者協議会執行委員)
※「アラウンド55(ゴーゴー)」は、50代の会員によるエッセイコーナーです。

セージソングの特集」だという。今はそんな呼び方をするのか。
一昨年、あるイベントで